

平成29年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (中京もえぎ 幼稚園)

1	幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する	保育の改善・充実
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主体的に遊ぶ」「好奇心や探究心を育む」ということについてまず教員間でしっかり話し込み、エピソードをとり共通理解する。 ・ 幼児が自ら周りの環境に関わり、「探究心や好奇心を育む」環境の在り方や教師の援助について検証する。 	
	(取組結果を検証する) 各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊びのエピソードを取る。 ・ 環境や援助が適切であったかどうか ・ 子どもの言葉や態度の変容を探る ・ アンケート項目「子どもたちは幼稚園でいろいろなことに興味を持って遊んでいますか」「子どもたちは幼稚園で遊ぶことが好きですか」 	
	各種指標結果 (1回目) <ul style="list-style-type: none"> ・ 「探究心や好奇心を育む」ということについて本園の実態や課題を共通理解し、エピソード研修や研究発表会において公開保育をすることで、どのような経験が大事であるか、今後どのような見通しをもって保育していきたいのかなど考察することで、幼児理解が深まり、教師の援助や環境構成の改善につながった。それに伴い、子どもたちも自ら環境にかかわり、主体的に遊ぶ姿の変容が見られた。 ・ アンケートの結果「大変そう思う」「そう思う」を合わせて97パーセント以上 	
自己評価	分析 (成果と課題) <ul style="list-style-type: none"> ・ 一学期に研究発表会をし、エピソードをまとめることは、本園の今年度の実態や課題が全教員で共通理解でき、子どもの姿のとらえ方や遊びの環境などについての意識が高まり、子どもが夢中になって遊ぶ姿がみられた。 ・ 保護者のアンケートの結果について、少数でもそう思わないと回答した保護者がいる。保護者の思いを聞き、担任の思いも伝えながら、幼稚園への信頼を築いていく。 	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちは自分の思いを出したり、友達など他者に関心をよせたりしている。しかし、自分たちが生活の主体者であるという意識が薄い姿も見られる。今後、子どもたちが自ら考え、自分たちで生活をつくっていくことを大事にしたい。 	
学校関係者	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者も教員もまずは、子どもができたこと、現状を前向きに受け止めることが大事であろう。次へその上へといこうとするから、出来ていないという思いになってしまうのではないか。他の人と比べたりすることをせずに子どもはできていないことがあって当たり前である。自分の子どもがここまでできているという思いをもつことが大事であろう。 	
評価	評価日 平成29年10月20日	評価者 学校運営協議会
	各種指標結果 (2回目)	

自己評価	分析（成果と課題）	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	評価日	評価者

<p>2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む <u>幼小接続の視点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が自ら周りの環境に関わり，夢中になって遊びこむことを通して，様々な感情を味わい，主体的に取り組む意欲や態度などを培うことが，幼児期の大きな学びであることの認識を深める。 ・ 幼小教員間の連携を密にし，接続期の大切さについて共通認識をし，接続期のカリキュラムについて共に考える機会をもつ。 		
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの保育や教育を見る機会をもつ ・ 交流の事前事後の研修会をもつ ・ 幼小接続のカリキュラムについて話し合う 		
<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園内研修の研究保育に小学校の教員が参加したり，幼稚園の教員が小学校の授業を一日参観にいたりなど，昨年からの取り組みを継続して行うことができた。 ・ 交流について，どのようにすすめていくのか幼稚園，小学校，保育園の幼小接続主任を中心に連絡を取り合い，事前の打ち合わせをした。 ・ 接続期の幼児，児童の実態やどのようなことが大事なのか話をすることができた。 		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の生活を知ることで，小学校の接続期の児童がどのような思いをもつのか，小学校教員が気付くきっかけとなった。 ・ 交流のあり方について，どのような経験を子どもたちに願うのか，共通理解を図ったが，互いの思いや願いなど，深く話し合うことは難しかった。 ・ 幼小の接続期における互いの担任の思いを伝えることはできたが，カリキュラムにまでは話が及んでいない。 	

	分析を踏まえた取組の改善 ・取組が組織的なものになるよう今後も継続していく。 ・交流を行うことで、子どもたちがどのような経験をしているのか、事後の研修会で幼小の教員の互いの思いを伝え合う。 ・接続期のカリキュラムについて幼児期に育まれた心をどのようにつなぐのか小学校へ発信していく。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・小学生のプログラミングの活動にかかわっている。宿泊保育で、自分たちで調理をして食べるという話があったが、調理の手順を考えることや何が必要かに気づくことはプログラミングにつながっている。幼児期の経験が様々に小学校以降の教育につながっていることがわかる。	
	評価日 平成29年10月20日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目）		
自己評価	分析（成果と課題）	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	評価日	評価者

3	自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む <div>心と体・生活習慣</div> ・一人一人の生活習慣についての的確に把握をし、定着するように家庭とも連携を取りながら指導を重ねる。 ・学年により、体を動かすことの楽しさが感じられるような遊びの場を提供したり、教師
---	--

<p>も共に遊ぶことでより楽しさが感じられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都御苑や六角堂など歩いていける園外保育を積み重ねることで、心や体を強くしたり、自然の中で遊ぶことの楽しさを味わう。 	
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一つ一つの生活習慣について確認をし、定着を図る ・ 子どもたちが体を動かす楽しさを感じる遊びが繰り広げられる。 ・ 安全指導や生活習慣の指導がきちんと週案にあがる ・ アンケート項目「子どもたちは自分で自分のことをしようとしていますか」 「子どもたちは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」 	
<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の自立については個人差が大きい。 ・ 公園をどんどん活用し、「走る」ことができた。 ・ 安全指導や生活習慣の指導について週案に明記されるようになってきた。 ・ アンケートの結果「大変そう思う」「そう思う」を合わせて97パーセント以上 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 衣服の着脱や持ち物の始末など、必要感や周りの状況などを感じて自らしようという気持ちを持つことが難しい姿や、自分自身で出来ることに気づいておらず、やってもらうことが当たり前になってしまっている姿などが見られる。 ・ 自分の力を出して体を動かす心地よさを感じる事ができた。 ・ 週案への記載については教員によって意識に差が見られる。 ・ 保護者は基本的生活習慣の定着について、自分でしようとする気持ちが育っていると評価している。しかし、持ち物を忘れた時などに、「お母さんが忘れた」と子どもたちから聞かれるなど、自分のこととしてとらえることが難しい姿が見られる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引続き、自分で必要感を感じ身の回りの始末をすることができるよう、自分でできる気持ちよさを認めながら丁寧にかかわっていく。 ・ 公園を継続して活用し、体を動かして遊ぶことを充実させていく。 ・ 週案に記録する大事さを意識し、明記することを徹底していく。 ・ 子どもが主体的に自分で生活することを意識することができるよう自分のことであることを繰り返し伝えたり、家庭とも協力しながら子どもたちは自分の生活に見通しを持ったり自分で生活していくことの心地よさを感じる事ができるようにしていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会で子どもが走っている姿、しっかり手をふって、膝が上がっていた。土の上を走るといふことの大事さ、子どもの姿が教育の証である。公園の活用については地域も活性化して喜んでいる。小規模保育ルームも公園を活用しながら、幼稚園の子どもたちの姿を見ている。互いにとっていい経験になっているだろう。
	<p>評価日 平成29年10月20日 評価者 学校運営協議会</p>
<p>各種指標結果（2回目）</p>	

自己評価	分析（成果と課題）	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	評価日	評価者

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する	
信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え	
<ul style="list-style-type: none"> 幼児期に、周囲の大人から自分は大事にされている、愛されているという感覚を味わうことが大切である。幼稚園においても教師と十分信頼関係を築き、安心して自分を出し自己発揮しながら生活を進めることができるようになると共に、よりよく人との生活や遊びを進めていく中では、自分の気持ちを調整することが必要であることすなわち折り合う心をもった幼児を育てていけるようなかわりを大切にした保育を展開する。 	
（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> 教師との信頼関係を築くことで幼稚園が安心の基地になり、自分の思いを出しながら遊ぶ 友達とのかかわりを通して、葛藤したり、喜んだり、様々に心を揺らしながら遊ぶ 人と遊んだり生活をしたりする中で、気持ちを調整して遊ぶことの大切さに気付く アンケート項目「子どもたちは、安心して幼稚園に通っていますか」 「自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりする楽しさを感じていますか」 	
各種指標結果（1回目） <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果「子どもたちは幼稚園に通っていますか」98パーセント アンケートの結果「自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりする楽しさを感じていますか」93パーセント ほとんどの子どもたちが幼稚園に安心して登園し、教師や友達とのかかわりを楽しんでいる姿が見られる。様々な行事や友達とのかかわりの中で、不安定な様子も見られる。 自分の思いが自分でわかること、思いを表現する姿が見られるようになってきた。 	

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の安心や信頼関係が子どもたちの安心につながってくる。保護者との関係を築いていく事が大事であろう。 ・教師や保護者が、子どもたちの経験を先取りしてしまうのではなく、子どもたち自身が様々な経験をしていく事が大事である。 ・遊びの中で様々な心を動かし、様々な思いをもつこと、それを自分なりに表すことが大事であろう。嬉しい、楽しい、悲しい、悔しいなど様々な感情体験をしていく必要がある。 	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者も安心できるように個人懇談の機会などで、個別に思いを共有し、信頼関係を築いていく。 ・集団生活の中で見られる様々な経験全てが、子どもが向き合い乗り越えようとしていく大事な経験となっていく事を丁寧に伝えていく。 ・遊びを充実し、担任を中心に教師や友達とかかわりながら、自分の思いを出し、様々な感情に向き合うことができるように支える。 	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の教育の中で、学校運営協議会や地域の大人が、様々にかかわっていくことが、子どもたちの成長には大きいだろう。今後も協力していきたい。 ・運動会の様子から、教師が、一人一人の子どもに応じて、様々な姿や思いを受け止めていることがよくわかった。 	
	評価日 平成29年10月20日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目）		
自己評価	分析（成果と課題）	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者	学校関係者による意見・支援策	

評価		
	評価日	評価者

園独自の項目	
(取組結果を検証する) 各種指標	
各種指標結果 (1回目)	
自己評価	分析 (成果と課題)
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	評価日
	評価者

各種指標結果（2回目）		
自己評価	分析（成果と課題）	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	評価日	評価者